

○ナンブアザミの一新変種 (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: A new variety of *Cirsium nipponicum* (Maxim.) Makino

佐渡島にはナンブアザミ *C. nipponicum* の一種がある。ナンブアザミよりは葉が厚く、深く切れ込みがあり、裂片の先は鋭い刺となる。観光客がよく訪れるドンデンでは、植物に名札が付けられているが、このアザミにトネアザミ *C. nipponicum* var. *incomptum* の札が付けてあった。現在の分類からすればトネアザミに当てるのは無理ないけれど、トネアザミは関東から中部地方の太平洋側に分布し、主に日本海側にあるナンブアザミとは分布領域を異にする。佐渡のものはトネアザミより葉が厚く、刺もより多い。この点ではトネアザミの海岸型と考えられ、関東南部や伊豆に多いイガアザミ var. *comosum* に類似する。しかし、佐渡のものはトネアザミやイガアザミからは総包片の幅が広く、外片と内片との長さはそれほど異ならない点で違いがある。この総包片の性質はナンブアザミと同じである。したがって佐渡のものはナンブアザミの島興型と考えた方がよいと思う。海岸の風衝地での適応型なら、本土側にもあるのでないかと思い、対岸の新潟の弥彦山や角田山付近を探したが、葉にやや切れ込みのあるものは見られたが、佐渡のように葉が厚く、深く切れ込み、鋭い刺の多いものは見つからなかった。いまの所は佐渡特産のようなので、サドアザミと呼ぶことにする。調査に当ってお世話になった伊藤至、森田竜義氏に深謝します。

***Cirsium nipponicum* (Maxim.) Makino var. *sadoense* Yamazaki, var. nov.**

Folia pinnatifida, laciniis 4-6 jugis, porrectis, longe spinatis, pinnatilobis, lacinulis apice in spinis 1-2 mm longis praeditis.

Hab. Is. Sado, Aikawacho, Bunagadairayama, Ohkuraotoge, 700 m, in wet herbages along stream, flowers purple. (T. et F. Yamazaki, Aug. 20, 1985, no. 5061, Type T1).

(東京大学 理学部附属植物園)

□Pangtey, Y.S.P. & S.C. Joshi (ed.): **Western Himalaya**, Vol. I & II 860pp. 1987. Gyanodaya Prakashan, Nainital, U.P., India. Rs. 950 (セット価). インドの研究者を主体とする Himalayan Research Group の論文集で、I 巻は Environment, II 巻は Problems and development の主題のもとに58の論文が収録されている。植物分類学関係としては、Floristic (I 巻)としてコケ1件、シダ3件、カシミールの固有植物、西ヒマラヤのスゲ類の分布がある。II 巻末に Duthie の業績についての要約がある。  
(金井弘夫)